



教授の呟き

第79回

ロジスティクスと地理をめぐる議論

東京海洋大学 理事・副学長

苦瀬博仁

●●● 地政学にまつわる思い出

大学院に在学していたとき、恩師のO先生が語ったことがある。「地理のなかに地政学という分野がある。過去に軍国主義に利用されたこともあって、いまの日本では研究されていない分野である。しかし、いつまでも避けていられるだろうか…」と。

当時は、海外旅行などは夢の時代だったから、仕事で海外に出かけたり、国際関係を考えることには無縁だと思っていた。しかし、初めて耳にした「地政学」という言葉の響きには、怖いもの見たさに似た好奇心と、いつか引き込まれそうな不思議な魅力を感じた。

大辞林では、地政学を「民族や国家の特質を、主として地理的空間や

条件から説明しようとする学問」としている。つまり地理的特徴が、国家に与える政治的・軍事的・経済的な影響を、解明しようとするものである。

●●● 久しぶりに耳にした「地政学」

昨年秋ごろから、月に1回程度のペースでアジア各国に出かけていた。現地で「日本の本社が、なぜこんなに輸送費のかかる場所に工場を設けたのか理解できない」「政治制度を調査せずに、ここに進出したようだ」などと日系企業の人から愚痴を聞いたたびに、産業立地論やロジスティクス論の枠組みを超えて、何か別の知識が必要ではないかと感じていた。

そんなときに、グローバル・ロジスティクスを考える会合で、「地政



学的にみると…」という資料説明に出くわした。「地政学」という用語を用いた意図を十分にはくみ取れなかったものの、心中は穏やかでなかった。久しぶりに幼なじみと再会したような感傷と、公の場で地政学という用語が使われていることへの驚きのせいだった。

●●●産業貿易国家としての地政学

しばらくして、拓殖大学の渡辺利夫学長と会食する機会があった。先生の主張の詳細は、近著の「新脱亜論」や、拓殖大学のホームページに掲載されている講演録に譲りたい。しかしあえて、その一端を筆者なりの稚拙な解釈で披露させていただくならば、「いくら産業貿易国家とはいえ、経済論理だけでは不十分である。そこには自ずと国家戦略がなくてはならないし、そのためには地政学の知識や視点も重要」ということになる。(1)(2)

杯を重ねるにつれて、「ロジスティクスと地政学」が話題の中心になっていった。そして、国際政治や地理には門外漢の筆者であるが、海外での産業立地やグローバル・ロジスティクスを語る時こそ、地政学が必要だと確信したのである。

●●●ロジスティクスのために ●●●地政学を学ぶ

現代の企業は、生産コストの安さと膨張する市場を求めて、中国や東南アジアへの工場進出が常識となっ

ている。もちろん、民間企業が経済論理を行動規範とすることは十分に理解できるが、進出先の各国で、政治的な意図に翻弄(ほんろう)されることもある。いくら民間企業活動とはいえ、経済論理だけではグローバル・ロジスティクスにも限界があるだろうし、官民連携に基づく国家戦略がなければ、国際競争力アップもおぼつかない。(3)

しかしわが国ではロジスティクス研究が、ビジネス分野を対象に経済学や経営学を中心に発展してきたため、その発祥がミリタリー・ロジスティクス(兵たん)であるにもかかわらず、国家戦略からロジスティクスを論じることは、一部を除いて軽視されてきたように思う。まして、安全保障や地政学には縁遠かった。

現在、東アジア、アセアン+3(日中韓)、環太平洋、日中韓など、国際的な枠組みの議論が盛んである。われわれは、隣国を選ぶことはできない。また過去も現在もそして将来も、周辺各国との地理的な状況は

変わらない。加えて、好む・好まざるにかかわらず、ロジスティクスは国際的な枠組みの中に組み込まれていくに違いない。だとすればロジスティクスも、経済だけでなく、文化、政治、軍事・安全保障などの多くの面から考えることが必要だろう。

つまり、地政学を学び直す時期が来ているような気がするのである。

●●●●●恩師の予言

「いずれ国際化する時代が来るだろうが、そのときは、経済地理の論理だけでは通用しないだろう。むしろ政治的・軍事的な意味も含めて、地政学がきっと役に立つよ」

この約30年前の恩師の言葉を、今とても重たく受け止めている。☑

参考文献

- (1) 渡辺利夫：「新脱亜論」、文春新書634、文藝春秋、2008
- (2) 曾村保信：「地政学入門—外交戦略の政治学—」、中公新書721、中央公論新社、1984
- (3) 金文学：「島国根性・大陸根性・半島根性」、青春出版社、2007

Profile

東京海洋大学 理事・副学長
苦瀬博仁

(くせ ひろひと) 1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により東京海洋大学、副学部長、評議員、流通情報工学科長を経て現職。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授。04年6月より09年5月まで東京大学大学院医学系研究科客員教授(併任)。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」(税務経理協会)、「都市交通—都市交通計画・都市物流計画」(丸善)、「マニラ・エンジョイ・トラブル」(論創社)、「明日の都市交通政策」(成文堂)、「都市の物流マネジメント」(勤草書房)、「病院のロジスティクス」(白桃書房) <http://www2.kaiyodai.ac.jp/~kuse/>

